

2017年10月6日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー
「インストラクショナルデザインを用いた教育・学修支援の可能性」

参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 58 名 アンケート提出数： 42 件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・鈴木先生が強調された「これまでの授業や研修を捨てる」が印象的でした。慣習となっているものを打破することも大切だと感じました。
- ・全体をデザインとして取り組むこと、理論を持ち、説明ができることの必要性を感じることができました。
- ・裏付けに基づいた効果的な考え方が必要であることが良くわかり勉強になりました。
- ・ID とは出口と入口のギャップを埋めること。
- ・最終的に研修は不要、教えなくても自ら学べる人を育てることが重要であること。
- ・「work place learning が研修デザインとして重要」ということは新たな気づきでした。
- ・大学のあり方についての先生のお考えを ID 理論に裏付けされた出口として提示され、ID のモデルをわかりやすく教えて下さいました。教える側、学生に求めるべき側面、双方がよくわかりました。
- ・学生視点でみたペリーの認知的発達段階説を聞いて、大学での学び方、教え方を考える上での新たな知見を得ることができた。
- ・ID の考え方、様々な状況において裏付けとなる理論があるということ。
- ・教育方法の見直しが必要ということ。
- ・自律（立）して学ぶ専門職を育てるために、今一度それまでのやり方を見直す必要があることを改めて感じました。
- ・ID の様々な基礎理論について、存在を知ることができました。
- ・鈴木先生のお話は以前より聞いてみたかったので大変良かった。熊本地震後の e-ラーニングシステムの状況も伺えた。
- ・定期試験の不要性
- ・「講義をしない」という新しい講義スタイルに興味をもった。
- ・ケラー教授の ARCS モデルを学習者にも意識させるということは新しい考え方でした。
- ・学びの仕組みは全体でデザインする必要があること。
- ・設計が大切であること。
- ・振り返り去年と同じことをしないことが大切であることがわかった。
- ・ID をよく知らない状態で参加しました。すべて新しい発見でした。
- ・ガニエの教授事象、6,7,8（注：配布資料 10～11 p）ができればあとは学生が自主的にできること。
- ・出入口という考え方
- ・職員の必要性・重要性
- ・自分のやる気をコントロールすること、主体的に学ぶことが大切だと思いました。
- ・教育や研修などはよく見直しを行い、より裏付けがあって、効果的・魅力的なものへデザインしていく必要がある。

次ページに続く

- ・今回のセミナーで「インストラクショナルデザイン」という言葉をはじめて聞いたが、教えるということの根本的な概念であることがわかった。自分は学生だが大学で講義を受けている身としては共感できることも多かった。
- ・先生のプレゼンの質と内容にとっても満足しました。新しい物の考え方を見せてもらった気がします。
- ・今までのやり方を漫然と続けてはいけな、ということの再認識。
- ・学生を自分で学べる人に育てるために何をすればよいか、のヒント。
- ・図書館主催の新入生向け講習がまさに経験ベースのものであった。先生の教えをもとに一度考え直したい。
- ・講義をやらないしくみという視点。
- ・ピアチュータ認定レベルのことなど。
- ・IDの基本的な考え方について良く理解できた。
- ・IDの考え方を活用し、研修を立案・実施しているが、まだ甘い点が、明確になった。(特に評価の点)
- ・今までのやり方で満足してはいけな、と改めて思います。研修のあり方を考えてみたいとおもいます。(組み立て、方法を考えなければ)研修は、はじめにテスト、なるほどと思いました。
- ・IDとは、どういうものかよく分かりました。
- ・自分でやる気をコントロールさせることが大切であることが分かりました。
- ・研修などの講義形式ではなく、学習者のニーズを知って、確認して(テスト)いくことが必要であると思った。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・先生のご経歴を紹介していただき良かったです。なぜインストラクショナルデザインを専門とされたか興味がわきました。
- ・意識が高い人の比率が高いとはいえない大学職員組織を変えるために、第一歩を踏み出すためには何が必要か。
- ・鈴木先生の著書を読ませていただいてIDについての理解を深めます。
- ・本当に触りだけという感じだったので時間が足りないなと感じました。
- ・自分の担当している講義で「講義をしない」を実践するにはどのようにすればよいか? (自問自答中)
- ・成功した事例を見せて欲しかった。
- ・話の展開が早く少し難しかったです。
- ・先生がアクティブラーニングについてどう考えられているか、お伺いしてみたかったです。
- ・実際のe-learning
- ・フォーマルな学習環境とインフォーマルな環境とのつながり、メンタリングについて学びを深めれば良いのか。
- ・私は実際に大学等の教員ではなかったもので、大学を出た新人等に対する教育の方法、そして成人教育との兼ね合いがあまりよくつかめなかった。しかし既存の考え方ではダメだということがよくわかった。
- ・インストラクショナルデザインの導入を聞いたのもう少し深く知りたいと思った。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・習得した知識を活用させる場の確保、活用内容の測定(振り返りのテキストマイニング)、測定結果にもとづいた指導の方法の開発

次のページに続く

- ・アメリカ（カリフォルニア州立大サンバーナーディノ校、 Loma Linda 大学）の学修支援体制を見学させていただいた時に、チュータ教育（バイト代を支払って）組織化されていることに驚いたが、日本の小規模の単科大学で同じような体制にすることはかなり難しいので、それに代わる効果的で効率的な取り組みとして e-learning を導入した。
- ・教員と職員の立場のギャップ
- ・大学職員も教授法は知っておく必要があると思いました。（図書館ガイダンスのテクニック、教員の立場への理解など）
- ・学生によるレクチャーを授業に組み込むこと
- ・振り返りの機会を提供すること
- ・個人のレベルで改善できるものと組織的に取り組まねばならぬものがある。千葉大学は後者が貧弱。
- ・熱意
- ・学生における学修支援を考えたときどのような研修をしていくか検討しています。CRLA チュータ研修を考えてみたいです。
- ・ラーニングアシスタント、学習支援者の教育の実施

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・短い時間でしたが、ありがとうございました。
- ・非常に有益な機会を頂きありがとうございました。
- ・講義で省略された部分をきちんと聞きたかった。
- ・職員を対象としたセミナーの内容だったが、教員にも役立つ内容だと感じた。
- ・インターネット公開や写真撮影について一言説明していただけるとありがたかったです。
- ・とても短い時間でしたが、エッセンスを学ぶことができとても良かった。もっとお話を聞きたいです。
- ・内容的に4時間くらいは必要だと思います。
- ・もう少し時間をとって説明を聞いてみたかった。
- ・レクチャーもっと長くて良いと思いました。
- ・本を読み、学びを深めたいと思います。どうもありがとうございました。
- ・特定の分野でもいいので、もう少し具体的な話を聞きたかった。
- ・実務に活かしたいとおもいます。ありがとうございました。
- ・職員さんにも是非知っていて（理解していて）ほしいことばかりでした。（私は熊本大学大学院教授システム専攻の一期生です。）
- ・インストラクショナルデザインの考え方自体は、私が追及したいと考えている指導者像と合っており、かなりよいものであると感じる。しかし、大学の講義改善方法として、テキストを配布し講義中の説明等を行わないというのはいかがなものかと考える。私の専攻の理科であったり、数学であったり、詳しい知識を持った人の話を聞くから分かることもあるし、まず「言いたいことを書いた」＝「学生が理解できる」とは限らないと感じる。私たち大学生ですら、自分たちより知識の少ない小中学生に教えるのは分かりやすいよう理解できるようかみ砕かなくてはならない。主体的に学習できる学生にすることと、手を抜くという放任的考えとの区別をつけた上で ID を普及させていくべきだと感じました。理解が浅い上に学生からこういうことをいうのは大変恐縮です。本日はありがとうございました。

